

ある飯場の内幕はなし

今回は、ある飯場の帳場さんから、聞いた話です。本人の希望により氏名その他はヒミツにします。

手配師と新聞と、どっちがトクかかってはなしからはじめよか。

「労務者渡世」の十八号をみてよ。五六ページに「ある飯場の話」って記事があるだろ。手配師の方は一人当り六千円で、スポーツ新聞の方は四千円足らずって書いてある。

コレね、一寸おかしいと思うの。どこがおかしいかと言うとね。ウチの飯場では十月に新聞広告に十万円もはらったけど、広告みて来た人、たった五人だった。一人

しくなったから、それ以前の統計とそれ以後の統計ではちがった答が出るのかもしれないね。

うん、新聞広告みてくる人と、手配師がつれてくる人とは、手配師の方がトンコは多いね。七人きて五人トンコしたこともあるからな。やっぱり仕事をさがす心がまえが違うのかな。コレ、ボクにはわからんねえ。

それから手配師の方は短期が多くて、新聞の方は長期が多いね。そのへん考えると、やっぱり新聞の方がトクかなア。

トンコが多いのは、ウチの待遇がワルイからだろうって。そんなことはないと思うよ。四千七百円で飯代七百円だぜ。えッ、今は食イヌキの六千円もあるって。それはとくべつだろう。ウチなんかぐらいが普通じゃないの。人夫出しのB組さんは日給三千五百円で、D組さんは四千二百円だって話じゃないの。T組さんはいくらかしらないけど、五千円で労働者を貸してるそうだから、オヤジのもうけを引けば人夫にはらってるのはB組さんと同じくらいだろうね。

それとくらべれば、ウチなんかいい方じゃないかね。食い物の不平だって聞いたことないしねえ。ま、トンコするものは、いくらよくしてやってもトンコするね。日給とか、飯代とかにはあまり関係ないんと

当りの求人費用は、だから二万円もかかったわけ。

じゃ、手配師に入れてもらった釜求人はどうだったかっていうと、だいたい三十名入れてもらって、はらったカネがやっぱり十万。そのうちトンコが二十名。のこったのは十名だから一人あたりの求人費用は一万円。

手配師と新聞はどっちがトクかかっていうとだれでもすぐわかる。親方にとっては、手配師の方がずっと安くつくんだな。

「労務者渡世」の記事とそこがちがうんだよな。だけど、いつの統計かかってことも考えると、話がすこしむずかしくなるな。

秋ごろから現金の仕事がふえて、釜での求人がむずか

違うかなア。

人夫出しはどの位もうかるかって？ たいていの人夫出しの親方は、みんな外車にのってるから、ものすごくもうけてるんだらうっていうの？ そういえばB組さんとこは、オヤジのとムスコのと二台あるしねえ。でも、ウチのオヤジのは国産だよ。

人夫出しにかぎらず、土建屋の親方連中が高級車にのりたがるのは、見栄も半分あるだらうけど、半分は商売のためだね。ボロ車にのってるのと、あの組は景気が悪いんじゃないかってバカにされて、仕事も取りにくくなるんだよ。

そういう世界なんだ。この世界は。ゴルフのつきあいも同じ意味だしね。

それで、どのくらいもうかるかって？ 困るんだナ、そういう質問は。

アノネ、税務署ではネ、人夫一人あたり一日に千円の利益と計算してるよ。まア、そのくらいと思ってるよ。

ナニ？ 請式や食費でももうけてるだらうって？ それはないよ。それはないことになってるんだ。税務署の方ではね。

請式なんかは、どこの飯場でも酒をおいてるだろ。そして酒屋で買うより少し高いネダンで売ってるね。だけ

どこれ酒税法違反なんだ。それから煙草もネ、これは一円ももうけなくても専売法違反だよ。だから税務署としてもヤヤコシイのさ。

諸式の利益に税金をかけると、酒税法違反や専売法違反をみとめることになるからネ。税務署は目エつぶってわけよ。ナ、わかるだろ。飯場の諸式は一銭ももうけてないってことにオモテムキはなってるんだ。

オモテムキはそうでも、ウラムキはちがうだろって？ そりゃそうだよ。

しかし、ウチの飯場じゃ一年間の諸式の利益はたった二十万円だ。一年に二十万じゃ、アルバイトの女事務員もやとえないよ。

飯代だってそうだよ。いまウチでは五十人いるからね。赤字にはならんけどネ。賄の人件費はらってトントンド。これより人間がへったら、たちまち赤字になるよ。

えッ。ウチのことはいいから、よそのことを教えろって。よそのことはしらんよ。

そうそう、日組さんは飯代八百円だけど、半分ヌイて（もうけて）るってウワサだね。あそこは諸式も高いからネ。三五円の軍手を百八十円で売ってるといっじやないか。ラーメンが百五十円だって。オヤジ、キャデラックにのってるもんねえ。

代、税金、ね、毎月大へんだよ。

それから交際費だって、毎月五十万ちかくなるんだよ。バカバカしいと思われるかもしれないけど、盆と年末のつけとどけ、ゴルフのコンペ、監督連中とお茶をのんでも、モトウケの部長クラスと食事しても、湯水のようにカネが出て行く。そういうカネをつかわんと仕事が出来ないんだ。

まだあるよ。福利厚生費や特別手当だな。古い者には店のネーム入りの作業服を配ったりするし、残業でおそくなったたりしたときには時間外手当はちゃんとつけてるけど、そのほかに、夜食を出したり、酒を出したりするだろう。これだってちいさくないね。

わっかるかねえ。

ピンハネ、ピンハネっていうけれど、店には店の、どうしても必要な経費ってものがあるわけよ。四千七百元でやとった人夫を、七千五百円で貸したら、二千八百円のピンハネしてると思われるけど、そのうちの、だいたいい二千円は、今いった必要経費ってわけなんだ。キミらが考えるほどもうかっちゃいないんだよ。税務署が考え

てるほどよね。
ナニ、それは人夫出しの場合で、請負の方はもうかっているだろうって。

ピンハネ？

それ、一寸人聞きが悪いよ。マージンとかナントカ、ほかの言葉で言ってくれよ。

つまり、人夫一人イクラでモトウケに出してるかっていうんだろ。まア、相場ってものはあるんだが、ウチの飯場では七千円で出してるけど、もう七千五百円でないとやっついていかれないね。

四千七百元の労働者を、七千五百円で売ったらもうけすぎだって。二千三百円もピンハネだって？ チェッ、ちっともわかってくれねえんだなア。だからいいいたくないっていったんだよ。

説明するよ。よく聞いてくれよ。

早いのはなしが交通費を考えてよ。現場へ送りむかえする費用がバカにならない。ウチでは毎月のガソリン代が二十万から二十五万円もかかっている。これに保険料、車検費用、税金などまで計算すると、毎日人夫一人につき八百円以上になるんだ。

交通費ひとつだって、これだけかかるんだから、ほかの費用まで考えたら、キミたちが考えるほどもうかかっていないのは、わかってもらえるんじゃないかね。

募集経費、つまり手配師にはらうカネや、新聞広告代は、さっきも言ったとおりだ。そのほかに、事務費、地

それは万博当時の話よ。いまはダメ、いまの請負師はウケオイシではなくてウケマケシだよ。世の中不景気だからね。工事単価はすえおきで、材料代や人件費は高くなるばかりじゃないか。

ウケオイシじゃ損するだけよ。まだしも人夫出しの方がカタイんだ。といって、今までの義理もあるし、先ではもうかる仕事もらえるかもしれないし（ヘカナイのぞみだけだね）、みすみす赤字とわかってる仕事でも、泣く泣く請負ってるんだ。今の世の中、下請業者には地獄だよ。

ま、それでも、ウチなんかいろんな意味でいい方じゃないかな。

D組さんなんか六千五百円で貸して、人夫にはらってるのが、四千二百円。S組さんも六千五百円だけど、日給三千五百円だろ。そんな安い日給じゃ、人夫が仕事しないよ。だから、言っちゃ悪いけど、D組さんも、S組さんも、いい手は集まらんじゃないか。

T組さんなんか、さっきもいったけど、五千円で貸してるんだから、そこから経費と利益を引いたら、人夫に渡すカネはいくらのこる？ ね、寒気がしてくるよ。

え、この話、労働者渡世にのせるの。オイオイ、それは困るよ。弱ったな。

じつ、店の名とボクの名だけは書かんといってくれよ。いろいろ、さしさわりもあるからね。

アッコ＝宣教師＝東大講師の本

本の方は古本屋によってまちまちだが安くて百円、高くて五百円ぐらい。(T6)

もう七年も前に出た本だが、古本屋でよく見かけるのが「愚痴と銀杏」だ。 編者後記 先号の十八号に夏祭りの記事がのっていたかと思うともうき月日が経つことの早さは結局は

書いたのは、マイケル、ギャラガーというアメリカ人宣教師で、三島由紀夫と野坂昭如と遠藤周作という、妙なとり合せの三人の序文がある。

くこのサボリグセと関係が深いのか。 一〇日の新聞は市内での四人の行旅死亡者のことを報じた。手を合わせて「合掌」をするまでもないむなしさに似た思いが起る。

そんな本を、なぜここに持ち出したかといえ、ギャラガーは宣教師で、東大の講師もやったが、この釜ヶ崎で、アッコ生活も体験していて、本の半分は釜ヶ崎のことだからだ。

渡世賞当選作「かげろうの如く」に出てくるT氏は、あっけない、しかも予想された死をとげた。一方「ケッチン」の主人公かみやんは、全体が明るく軽快なケッチンでえがかれているが、最後のケッチンのザマは、いつ訪れるか知れないケッチン死をぼくに予想させてしまう。

そして、彼の体験したアッコの仕事のなかのコンタリート打ちは、ホッパーがありカード車がある古いやり方のもので、そこを眺んでいたら、昔の馬車や牛車のクルマ一つが高い値段で売られていることが考えられた。いま、コンタリ打ちはみんなポンプで、カード車なんてどこも使っていないが、そのうちに、あんな物も、応接間や喫茶店の飾り用に高い値段がつくのかも知れない。

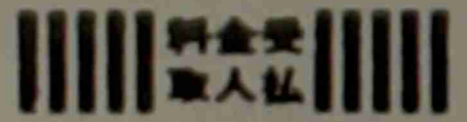
常にアッコは死を背負いつつ生きている、といえ言えがいたこの二つの作品は共に秀作だった。 彼の作品についても感想を寄せてほしいし、どんどん投稿してほしいと思つた次第。(T2)

大阪市西成区萩之茶屋三ー六一一五

釜ヶ崎生協気付

渡世舎行

郵便はがき 557



西成局承認 48

差出有効期間 昭和52年10月 31日まで

切手はいりません

おとし 名まえ いるところ、またはドヤ名 どんな仕事にいらしてますか(土工補役・工場補役・土方・トビ・大工・その他の職人・職人手元・その他)——(契約・現金) 白手帳を(持っている・持っていない・持ってたけど今はない)

【 労務者渡世 】 販売所

釜ヶ崎生協 三角公園西 安定所の通り 軍手 タビ 食料品の店

かとう シロンベンガード東へ抜けてすぐ右側 新聞雑誌の店

① 銀座通 ・ 安い屋 ・ ならび 新聞雑誌の店

千石書店 パチンコ・ニュー大阪・東へ 新開筋商店街南側

いこい食堂 西成警察署ウラ 公園北側の食堂

大阪労演 中之島朝日ビル7階にある事務局

長瀬書店 東京・山谷 パレスのウラの方 古本と雑誌の店

バックナンバー紹介

【十二号】特集バンク（売血）／行倒れた売血者の横を大砲が走る／血で食うものと食われるもの／血を買い会社のもうけぶり／他

【十三号】特集読者之声／露店、天皇、天国の記録／三里塚援農報告／職業不安定所／ニュース寸評／新聞にみる最近の釜ヶ崎／他

【十四号】特集おかま／被男色常習者／その道のドヤ／起源、同性愛と釜ヶ崎／地図／おかまにあえるところ／暴動実録史／他

【十八号】特集なぜ／あいりん／か／暴動実録史「釜ヶ崎」が「あいりん」に／アンケート構成／インタビュー／聞き書きシリーズ／良心的な手配師のはなし／労務者の歴史／他

【労務者渡世】第十九号

一九七六年十二月二十日 発行

労務者渡世編集委員会

大阪市西成区萩之茶屋三―六一―十五

釜ヶ崎生協 気付